わが国の野生鳥類保全に関する問題点

講演要旨

山岸　哲（山階鳥類研究所所長；元日本鳥学会会長）

種の平均寿命は、化石の記録から計算すると、約 200 万年程度と推定されており、鳥類では 200 年に 1 種ぐらいが絶滅してきたものとみられている。ところが、人間が出現してからは、この状況は一変してしまった。1600 年以降の世界の絶滅鳥類の記録を調べてみると、この 400 年間で私たちは 128 種の鳥類を失っている。これは先に述べた地史的なスケールで自然界で生じていた絶滅の約 60 倍の速度で鳥類の絶滅が進行していることを意味している。

絶滅した 218 種すべての直接的な絶滅原因を特定できているわけではないが、特定できたものでは、人間が持ち込んだ移入種が原因と思われるもの 39%、人間による生息地の破壊が原因と思われるもの 36%、人間の狩猟によるものが 23%であり、ほとんどすべてが人間活動によって絶滅に追い込まれている。2000 年の国際自然保護連合のレッドデータブックから計算すると、今後この傾向はさらに加速され、わずか 100 年後の 2100 年には、絶滅の心配のある種類は 450 種を越えると予想されている（BirdLife International 2000、バードライフ・アジア編　2003）。こうした状況の中で、わが国における野生鳥類の保全に関する問題点を最近の出来事を例にとり問題提起してみたい。